

# 2025(令和7)年度 第2回 遺跡調査発表会要旨



## 発表遺跡 Line up

- 発表1 つじいせき 築地遺跡 (葦崎市)  
葦崎市教育委員会 渋谷 賢太郎
- 発表2 かんだいせき 神田遺跡 (甲府市)  
昭和測量株式会社 藤巻 浩太郎
- 発表3 しんめいせき 神明遺跡 (笛吹市)  
山梨県埋蔵文化財センター 桐部 夏帆
- 発表4 しせきこうふじょうあと 史跡甲府城跡 (甲府市)  
山梨県埋蔵文化財センター 渡邊 みずか

### 1 築地遺跡



新旧の住居が入れ子状になった  
住居跡(縄文時代前期)を調査

### 2 神田遺跡



弥生時代から平安時代の  
集落跡を調査

### 3 神明遺跡



室町時代の土器が集中して出土  
宴会等の片づけ遺構の可能性

### 4 史跡甲府城跡



甲府城のお堀ぎわの石垣  
裏側があらわに

開催日 2026(令和8)年3月14日(土)  
会場 風土記の丘研修センター 講堂

主催 山梨県埋蔵文化財センター  
山梨県考古学協会

# ついでに 築地遺跡

韮崎市教育委員会 渋谷 賢太郎

- 1 所在地 韮崎市大草町上條東割地内
- 2 調査主体 韮崎市教育委員会
- 3 調査期間 令和7年9月24日～  
令和8年1月5日
- 4 調査面積 約180㎡
- 5 調査原因 個人住宅建設に伴う宅地造成
- 6 調査担当者 渋谷賢太郎・関間俊明・半澤直史
- 7 調査概要

## (1) 遺跡の立地と調査の経緯

築地遺跡は、韮崎市域のなかで南側に位置する大草町上條東割に所在します。遺跡は、釜無川右岸の台地上の標高約386mに立地します。西側には南アルプスの山々がそびえており、南アルプスの山々の裾野の傾斜がやや平坦となった部分に位置します。釜無川と台地の関係性については、釜無川が浸食したことによる段丘面が発達しており、台地の東端には段丘崖が存在します。また遺跡の西側には割羽沢が流れており、微地形においては、本遺跡が台地の馬の背状の微高地に所在することがわかっています。本遺跡の東側には甘利小学校が所在しております。

本遺跡の南側には羽根前遺跡や大門遺跡、南宮神社等が所在します。羽根前遺跡は、本遺跡に隣接しており、近年の県道拡幅工事においても調査が行われました。調査では、縄文時代前期～中期、弥生～平安時代、中世の遺構及び遺物を確認しています。大門遺跡は、縄文・古墳・平安時代の遺跡ですが、過去に旧石器時代のナイフ形石器が採集されていることから本遺跡周辺では古くから人類が活動していたことが伺えます。南宮神社は、927年の創建と伝えられており、戦国時代においては、武田家からも崇拝を受けていたことが知られています。

築地遺跡ではこれまでに数回の発掘調査が行われており、平成27年度には個人住宅建設に伴う発掘調査が行われました。縄文時代の遺構や弥生時代～古墳時代の方形周溝墓等とともに縄文時代前期の土器が多く確認されました。

今回の調査は、個人住宅建設に伴う宅地造成のために実施しました。当該土地がこれまで柿の木畑であったことから、樹木の伐根が必要不可欠となりました。事前の試掘調査において遺跡が現地表面から約40cmの深さから確認され、伐根により遺跡の破壊が免れないことから、伐根以前に住宅造成部分全域を対象として記録保存のための発掘調査を実施することとなりました。

## (2) 調査成果の概要

調査では、A 縄文時代前期 B 弥生時代後期～古墳時代前期の主に2時期の遺構及び遺物を確認しまし

た。以下はそれぞれの状況について述べることにします。

A 縄文時代前期については、主なものとして住居跡5軒を確認しました。そのうち1号住居跡が特に注目されます。平面形態が隅丸方形となり、6本の支柱穴で構成され、南端と北端に各1本の柱穴が配置される建物とわかりました。また、住居跡は新旧が入れ子状になっており、内側の住居跡が新しい段階のものと判断されました。住居内からは多量の土器や石器が出土しました。土器は、「中越式」と呼ばれるほとんど文様の付かない丸底の土器と「神ノ木式」と呼ばれる縄や櫛歯で土器全体に文様を付ける平底の土器等が出土しています。対照的な異なる特徴の土器が共に出土していることは、単に同時期の状況を示すことにとどまらず、当時の土器製作、土器の扱い方、縄文人の集団と集団間の交流、生業活動等を解明していく意味においても多くの情報が含まれるものと考えられます。石器については、入れ子状の内側の住居跡の壁沿いに完形の石皿3点が出土していることが特徴と考えられます。台石やスリ石などの石器も多く出土しています。また、大小様々な黒曜石が多量に出土していることも重要と考えられます。現状で黒曜石の産地同定は未実施ですが、信州産の黒曜石が流入してきていると仮定した場合、釜無川右岸に点々と続く縄文時代前期の集落のひとつとして位置づけられ、それらの遺跡を丁寧<sup>に</sup>に紐解いていくことで当時の黒曜石の道と集落関係の解明へと繋がるものと考えられます。本遺跡が現状において甲州街道（現国道20号線）・駿信往還（現県道42号線・旧国道52号線）・佐久往還（現国道141号線）といった交通の結節点に近いことも注目されます。

B 弥生時代後期～古墳時代前期については、主なものとして溝跡や土坑を検出しました。溝跡は少なくとも2基の方形周溝墓を構成しているものと判断されます。溝の形状及び溝を埋めた土の性質の検討から1号溝と4号溝がセットとなって方形の区画を形成するものと考えられます。2号溝は溝の規模や形状から方形となることが推定されますが、明確に対になると判断される溝は検出されませんでした。溝形状の特徴としては、方形区画の内側となる方が急傾斜となり、外側の方が緩やかに立ち上がる傾向が確認されました。なお、溝の内側に想定される盛土やマウンド、関係すると考えられる遺構等は確認されませんでした。遺物は、少量ながら弥生時代後期～古墳時代前期と考えられる甕や壺等の破片が出土しました。また方形周溝墓と捉えた1号溝と2号溝には切り合い（重なり合い＝時間差）が認められ、2号溝が埋まった後、1号溝が

掘られたことも明らかとなりました。

### (3) 今後の課題

今回の調査成果から以下の点が今後の課題（A - 1～C - 2）と考えられます。課題については、Aが縄文時代前期に関わるもの、Bが弥生時代後期～古墳時代前期に関わるもの、Cが時期を問わず遺跡全体に関わるもの、として整理しました。

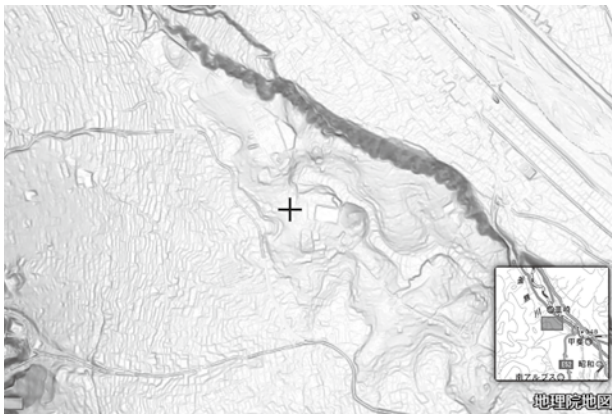
A - 1) 住居跡の構築・廃棄過程の整理と遺物に関わる詳細な検討。A - 2) 遺跡の立地特性等を含めた集落の規模や生業活動等の検討。A - 3) 縄文時代前期中葉段階の集落間（遺跡間）関係性についての検討。

B - 1) 溝跡の新旧関係等を含めた構築段階、埋没過程、その他遺構についての検討。B - 2) 方形周溝墓と当時の集落との関係性の検討。B - 3) 集落域・

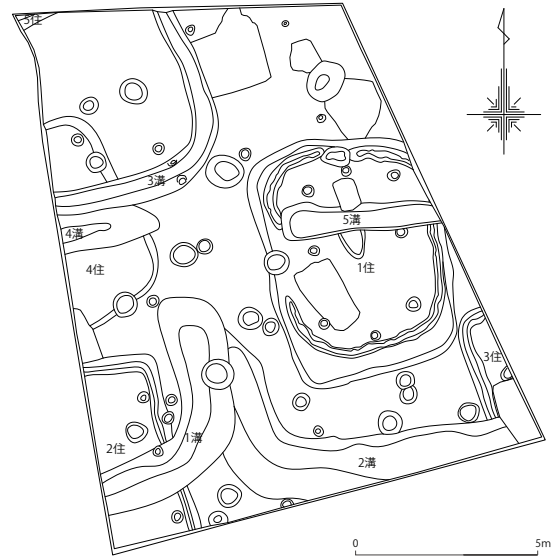
墓域等を含めた広域での検討。

C - 1) 重層的に積み重なる遺跡の通史的な検討と評価。C - 2) 遺跡周辺の地域特性と人類活動の整理と位置づけ。

上記の課題は多岐にわたっており、それぞれの課題においてミクロとマクロの視点が含まれています。ミクロの視点が必ずしもマクロな視点に繋がるわけではないですが、地域の歴史を紐解くことに主眼をおいて今後丁寧に整理作業を進めていきたいと考えております。



第1図 築地遺跡 調査地点位置図



第2図 築地遺跡 遺構配置図



1号住居跡 遺物出土状況①



1号住居跡 遺物出土状況②



1号住居跡 完掘状況



築地遺跡 完掘状況

# かん だ い せき 神田遺跡

昭和測量株式会社 藤巻 浩太郎

- 1 所在地 甲府市千塚三丁目 2177 番 1 外 10 筆
- 2 調査主体 昭和測量株式会社
- 3 調査期間 令和 7 年 7 月 14 日～  
令和 7 年 12 月 15 日
- 4 調査面積 1,040.67㎡
- 5 調査原因 宅地造成
- 6 調査担当者 藤巻浩太郎
- 7 調査概要

## (1) 遺跡の立地・環境

神田遺跡は、甲府市北西部の千塚地区、片山と湯村山との山裾を南流する荒川が造った扇状地左岸の扇状部、標高 296 m 付近に形成された微高地上に所在します。遺跡の名称は遺跡発見時の字名に由来します。周辺には古墳時代から平安時代にかけての遺跡が多くみられ、現存する加牟那塚古墳や万寿森古墳などの大型の横穴式石室を持つ古墳や失われてしまった多くの古墳から千塚と言われています。

## (2) 調査の概要

今回の調査地点は神田遺跡一帯において、宅地造成事業が計画されたことから、試掘調査が甲府市教育委員会によって令和 6 年（2024）に行われた結果、古墳時代中～後期の遺構・遺物が確認されました。

今回の発掘では進入路計画範囲について調査を行いました。調査の都合上、南北約 98 m の範囲を 2 工区（以下 A・B 区）、東西約 60 m の範囲を 1 工区（以下 C 区）の合計 3 工区に分けて調査を行いました。

## (3) 調査成果

調査地点からは竪穴住居 11 軒（弥生時代 1 軒、古墳時代 5 軒、平安時代 5 軒）、溝状遺構 17 条、土坑 31 基などが見つかりました。見つかった竪穴住居の内、5 軒は一辺が 2～3 m の小形のもの、残りの 6 軒は一辺が 4～6 m のものでした。出土遺物や周辺の遺構との切り合い関係から大形の竪穴住居に古い時代のものが多いと考えられます。

A 区では竪穴住居 4 軒、溝状遺構 8 条、土坑・ピット等を検出しました。この内、溝状遺構 SD4 では底部から S 字状口縁台付甕、高環が出土しました。溝の

両端は調査区外へと延びるもので全容は不明ですが、東端は調査地点内で 90 度南東に方向を変えるため、方形に巡る可能性があります。また、竪穴住居 SI4 では住居中央に炉跡があり、炉からは弥生時代後期の壺が出土しました。

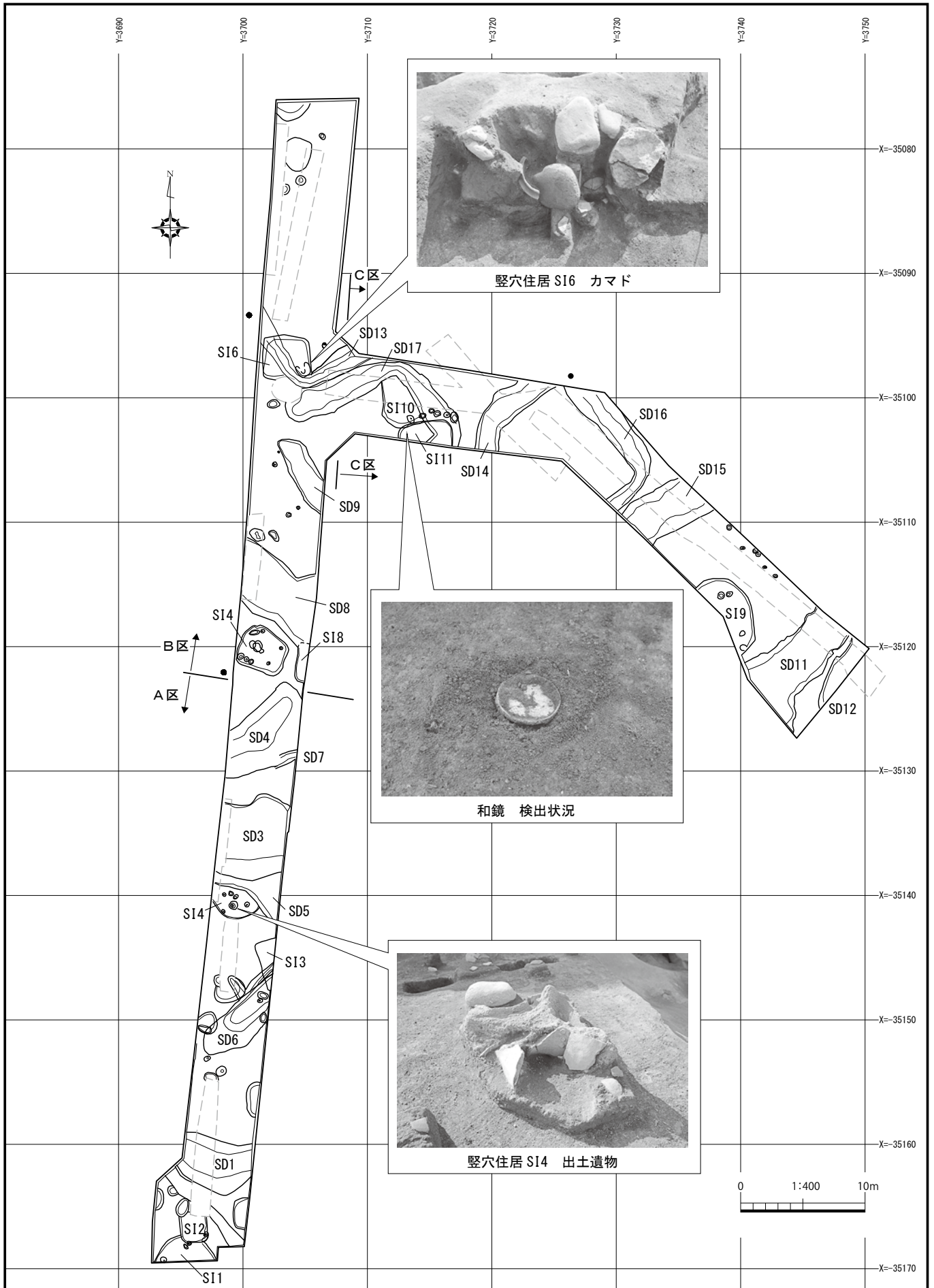
B 区では竪穴住居 4 軒、溝状遺構 4 条、土坑・ピット等を検出しました。この内、竪穴住居 SI6 ではカマドを 2 基確認しました。1 基は住居の南壁に造られており、このカマドは袖石や天井石が遺失し粘土による構築材と燃焼部、煙道が遺存するのみでした。もう 1 基は住居の南東隅に造られており、袖石、天井石が残存していました。内部には羽釜が直立して出土しましたが、直上から石によって割られていました。羽釜の下から外耳土器が出土するため、使用時期については今後の検討が必要となります。

C 区では竪穴住居 3 軒、溝状遺構 5 条、土坑・ピット等を検出しました。溝状遺構 SD15 は調査区の東部で検出したもので、最大深度 1.4 m を測ります。出土遺物として、溝底では弥生時代後期～古墳時代前期、埋土上部では平安時代と層毎に遺物の時期が異なり、長期間に渡って開口していた溝と言えます。

また特筆すべきものとして、11 号住居の直上に堆積する包含層から白銅製の和鏡が出土しました。この和鏡は草花文に 2 羽の鳥が施された直径約 10cm の鏡で、平安時代～中世にかけて製作されたとみられます。同層から平安時代の土器片が出土することから平安時代以降の遺物と考えられますが、住居に由来するものか検討する必要があります。

## (4) まとめ

今回の調査で弥生～平安時代の集落跡が見つかったことで長期間に渡って人が住み続けた地と言えます。今後、出土遺物の時期や形態を調査し、周辺遺跡の調査記録と対応させることで神田遺跡の性格を考えたいと思います。



遺構配置図

# しんめい いせき 神明遺跡

山梨県埋蔵文化財センター 桐部 夏帆

- 1 所在地 笛吹市石和町小石和地内
- 2 調査主体 山梨県埋蔵文化財センター
- 3 調査期間 令和7年6月2日～10月10日
- 4 調査面積 約1,412㎡
- 5 調査原因 新山梨環状道路建設工事
- 6 調査担当者 桐部夏帆・大木貴仁
- 7 調査の概要

## (1) 遺跡の概要

神明遺跡は笛吹市石和町小石和地区に位置しており、笛吹川と平等川に挟まれた氾濫平野に位置しています。調査地点の標高は約256mを測り、現地表から約1mは厚い砂礫層で覆われていました。これは明治40年に周囲一帯を襲った洪水の影響によるものと考えられます。

## (2) 調査結果

今回の調査では今から約600年前（室町時代）と、約900年前（平安時代）の遺構を発見しました。室町時代の調査では、柱穴や溝、墓、石敷遺構、石組井戸、土器集積遺構などを発見しました。

墓は調査区西側で2基発見しました。埋葬されていた人骨は、残存していた頭蓋骨や大腿骨の状況から、頭を北向きにして顔を東に向けた状態で屈葬されており、一般的な埋葬の形態であると言えます。

石敷遺構は調査区の南西隅で発見しており、西側一部が調査区外となっています。板状の礫が敷かれた上に拳大の川原石が並んだ構造をしており、その間には大量の炭化物を含む土が堆積していました。敷かれた礫には熱を受けた痕跡があり、その場で火を焚いたものと考えられます。石敷遺構の北側約5～10mの範囲では骨片や炭化物を多く検出しています。石敷遺構は火葬施設である可能施設があり、現在検討を進めています。石敷遺構の大きさは東西約1.2m×南北約0.5m程度で屈葬された人が1人収まる程度の大きさでした。

石組井戸は南側調査区を中心付近に位置しており、周囲に土器集積遺構が4基見つかりました。土器集積遺構は、いずれも土師質土器皿（かわらけ）のみで構

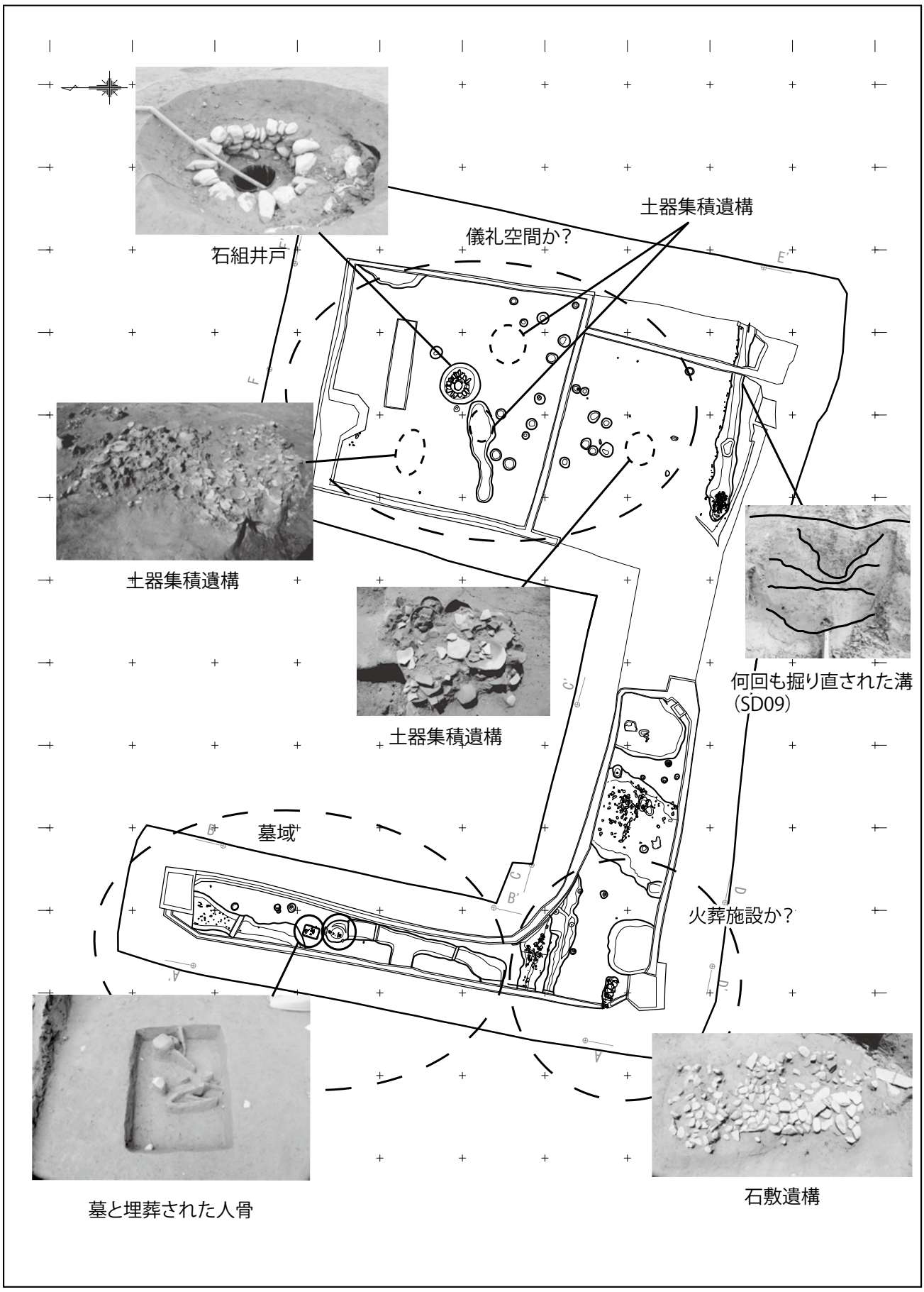
成されており、正位と逆位のものが入り混じった状態でした。検出したかわらけは、意図的に配置されたように積み重なっているものではなく、まとめて廃棄されたような状態で、ほとんどが割れていました。完形で発見したものも少なく、お祭りや宴会等の片づけ遺構である可能性があります。土器集積遺構が井戸の周辺に集まっていることから、調査区東側の空間全体がお祭りや宴会等の儀礼に関連する可能性が考えられます。土器集積遺構配置や性格などの詳しい分析については今後行っていく予定です。

また、調査区の南東隅には東西方向に伸びる溝跡が見つっています（SD09）。SD09は中世から近世まで少なくとも2回は掘り直された形跡がありました。一番新しい溝が埋まった後には明治40年の水害による洪水層が堆積しているため、SD09は明治40年頃まで使用されていたものと考えられます。このことから長い間継続して使用されており、用途としては、土地の境界などが考えられます。

平安時代の調査では竪穴建物跡や柱穴などを発見しました。竪穴建物跡の規模は約4×3m程度で、どちらも方形を呈しています。柱穴やカマドは見つかっていません。うち1つは南東隅が調査区外になっています。このことから当該地に平安時代の集落の存在が明らかになりました。

## (3) まとめ

室町時代の調査では、西側に墓や火葬施設の可能性がある石敷遺構など葬送に関連する遺構を発見しており、東側に井戸や土器集積遺構など儀礼に関連する遺構を発見しています。このことから本遺跡は一般的な居住空間とは違う利用をされてきた場所である可能性が考えられます。



室町時代の遺構配置図 (縮尺任意)

# し せ き こ う ふ じ ょ う あ と 史跡甲府城跡

山梨県埋蔵文化財センター 渡邊 みずか

- 1 所在地 甲府市丸の内一丁目 131 番ほか
- 2 調査主体 山梨県埋蔵文化財センター
- 3 調査期間 令和7年7月1日～  
令和7年10月31日
- 4 調査面積 約 168㎡
- 5 調査原因 史跡整備のための内容確認
- 6 調査担当者 佐賀桃子・渡邊みずか
- 7 調査概要

## (1) 史跡甲府城跡の概要

史跡甲府城跡は、今から約 430 年前の文禄～慶長年間に完成したとされる県内唯一の高石垣を持つ近世城郭です。築城時の野面積み石垣や、天守台を最頂部とした階層的な縄張りが良好に残っており、国の史跡に指定されています。

現在、令和3年度に策定した史跡甲府城跡整備基本計画に基づき、甲府城南側に存在した大手門に近接する内堀の整備に向けた調査を実施しています。

## (2) 史跡の立地

甲府城跡の大部分は、安山岩を基盤とする独立丘陵上に位置しています。このため地盤が安定しており、現在に至るまで石垣が良好に残ったと考えられます。一方で、内堀帯は丘陵周辺の水が集まりやすく、シルトが堆積するような軟弱な地盤でもあります。

調査対象の楽屋曲輪東面石垣は、このような軟弱地盤上に造られた石垣です。

## (3) これまでの成果と今回の調査目的

楽屋曲輪東面石垣は近代以降の市街地化により、地上部分の多くが失われていますが、令和4年度からの調査により、石垣の最下部にあたる根石はほぼ全ての箇所に残存していることがわかりました。軟弱な地盤に石垣を築くための補強として、根石の下に胴木・枕木と呼ばれる丸太が据えられ、さらにその下には、地面を掘り下げて石を充填した根切りが確認されました。令和7年度は、石垣の内部構造とその規模を明らかにするための調査を実施しました。

## (4) 調査の成果

近世城郭の石垣は、基本的に築石、裏栗層、土の3層構造です(図5)。今回の調査箇所でも、石垣の表面には控え長約0.8mの築石、その背面には幅約4mの裏栗層、幅2mの盛土層が続き、その奥には自然堆積層が続いていることがわかりました。これらの数値

はいずれも調査範囲内で確認されたものです。

当該石垣の本来の高さは、約6.6mと推定されていますが、その大部分が失われ、残存するのは根石下部から1.2m程度であるため全貌はわかりません。しかし、残存している裏栗層上面から約0.5mの深さまでは、10～20cm程の小ぶりな石が詰められている様子を確認できました。掘り下げていくにつれて、30cmを超える大きな石が多く用いられるようになることを確認しました。さらに下層では大きな石と石の間を埋める小ぶりな石が少なくなり、これによって生じた隙間には石垣の外から流入してきたと考えられるシルトが堆積している箇所もありました。このように石垣最下層のみの限られた調査範囲でも、裏栗石の入り方が一様ではないことが確認できました。

裏栗層の下部からは、昨年度に石垣の前側で確認した枕木と根切りの続きを確認しました。裏栗石と根切り内の石は一見同じような様相でしたが、裏栗石は角礫や垂角礫が多く、裏栗下層の石は前述したように30cmを超えるものが多い傾向であるのに対し、根切り内の石は全体的に円礫、垂角礫を多く含んでおり、10cm～20cmと小ぶりなものが多い傾向がありました。今後、より詳細に検討していきたいと考えています。

裏栗層の背面では、自然堆積層を斜めに削平した上に盛土が施工され、その上に裏栗層を造る構造であることを確認しました(図6)。盛土は全体がシルトのブロックで構成されていました。

以上のことから、最下層は10～20cm程度の礫を含む砂礫層でした。現存する範囲で確認できる遺構の形成過程は、根切り⇒枕木・胴木⇒裏栗層の一部⇒盛土層最下部の砂礫層⇒盛土⇒裏栗層の順であることが想定されます。

## (5) まとめと課題

今回の調査によって、石垣背面の構造と規模および、石垣下部の胴木や根切りの様相等、基本的な構造を把握しつつあります。

今後さらに追加の調査や整理作業等を進めていく中で、今回の成果を改めて検討し、この地点の遺構の理解を深めていく予定です。また、甲府城全体の地盤や石垣の構造も含めて総合的に検討し、より良い整備を目指します。



図1 調査対象地



図3 盛土層堆積状況



図4 検出した枕木

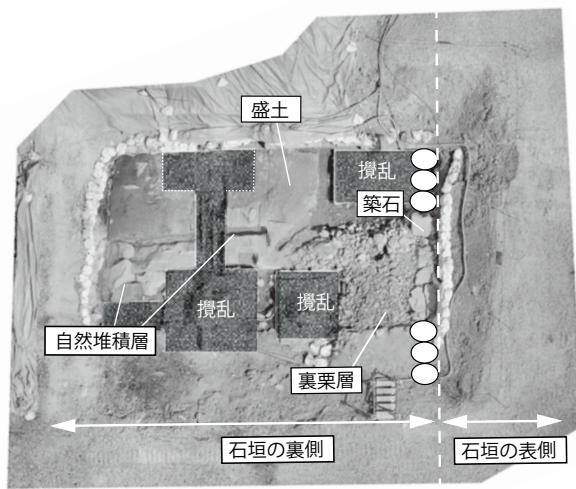


図2 石垣の調査状況

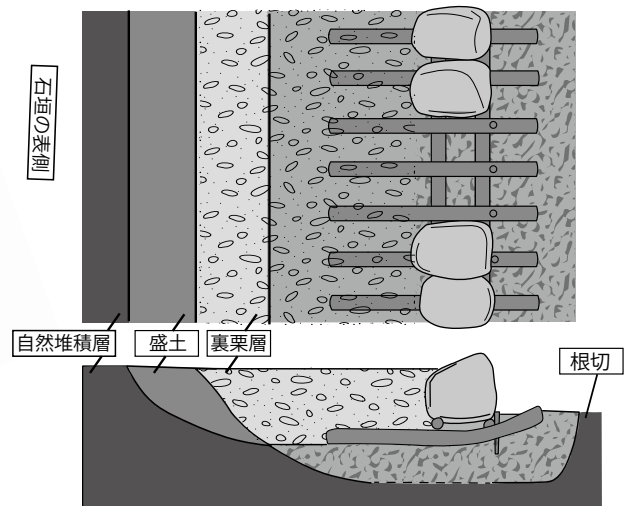


図5 石垣下部構造および背面構造模式図

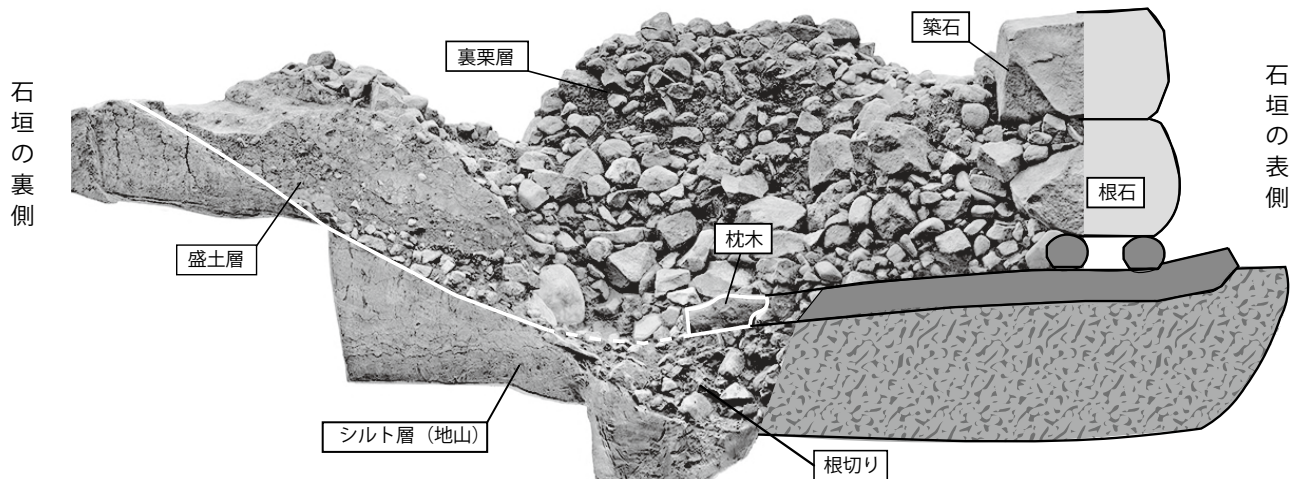


図6 石垣背面および下部立面図

# 令和7年度の県内埋蔵文化財の調査と保護

山梨県観光文化・スポーツ部 文化振興・文化財課 埋蔵文化財担当

## 1 届出件数と内容（令和6年度分）

令和6年度の県への文化財保護法（以下、「法」という）に基づく届出等の件数は、以下のとおりとなっています。令和5年度と比較して、届出総数は減少傾向にあります。

＜試掘調査・発掘調査＞

民間主体（法92条）：6（11）件

行政主体（法99条）：179（235）件

＜遺跡内の土木工事等の届出＞

個人・民間（法93条）：625（827）件

公共団体（法94条）：63（78）件

＜遺跡の不時発見＞

個人・民間（法96条）：0（0）件

公共団体（法97条）：0（0）件

※（ ）内は令和5年度の数字。

近年の件数の推移（次頁グラフ）を見ると、土木工事等の届出件数は景気・社会情勢など（消費税増等）を要因として増減を繰り返しており、令和6年度は減少傾向にあります。また、発掘調査件数は、この数年で増加傾向にありましたが、令和4年度から減少傾向にあります。

## 2 開発に伴う発掘調査（令和8年1月1日現在）

令和7年4月～12月に実施された県内の発掘調査の状況について概観します。大小様々な開発行為に伴って試掘調査が行われ、埋設保存ができない場合に限り、記録保存のための発掘調査が実施されています。大規模な事業としては、面積が広大な農業基盤整備事業に伴う試掘調査・発掘調査が、峡北地域や峡東地域を中心に行われています。リニア中央新幹線や新山梨環状道路東部区間の建設工事に伴う発掘調査も本格化しており、数地点で調査が進められています。一方、民間開発では、個人住宅や宅地造成などの住宅関係の開発にかかる割合が依然高くなっています。

なお、周知の埋蔵文化財包蔵地外の試掘調査等により、新たに3つの遺跡が発見されました。

## 3 発掘調査の成果

今年度県内で行われた発掘調査では、各地で成果があがっています。

リニア中央新幹線の本線工事に伴い発掘調査を行った天津天神堂遺跡（甲府市）では、中世の集落跡が確認され、溝に囲まれた掘立柱建物跡が検出されました。その上層からは田畑が検出され、集落から田畑へ土地の利用方法が変化したことが明らかとなりました。その他、本線工事に伴い、上窪遺跡（中央市）、平田宮第2遺跡（中央市）でも調査が進められています。また、中央新幹線保守基地建設工事に伴い、中谷遺跡（都留市）の発掘調査を実施しました。新山梨環状道路建設工事に伴い実施した調査では、笛吹市石和町地内において神明遺跡の発掘調査が行われました。神明遺跡からは中世の集落跡が発見され、墓や被熱を受けた痕跡のある石敷きの遺構が検出されました。

北杜市の腰巻遺跡では、農業基盤整備事業に伴い発掘調査が実施されました。古墳時代後期から平安時代にかけての集落跡が発見され、竪穴建物跡や掘立柱建物跡が検出されました。昭和町では、義清神社内遺跡において、拝殿の立て替えに伴う発掘調査が実施されました。拝殿を支えていた礎石や江戸時代の地盤造成の様子が確認され、江戸時代の寛永通寶や大正時代の1銭硬貨など、賽銭と考えられる貨幣が出土しました。

また、学術調査は2件実施されました。北杜市の諏訪原遺跡では、盛岡大学と中央大学による調査が行われました。遺跡形成過程の復元を目的に縄文時代中期の住居跡が発掘されました。富士河口湖町の本栖湖底遺跡では、遺跡が形成された当時の地形や環境を復元するために帝京大学文化財研究所により調査が行われました。

## 4 埋蔵文化財保護体制の整備

県内の市町村の状況として、発掘調査など埋蔵文化財保護行政を担当する専門職員は、全27市町村のうち15市町に配置されており、配置率は約56%となっています。いわゆる団塊の世代の退職等によって、職員数は減少傾向にありますが、一方で新規採用などもみられます。実務経験の少ない若手職員の育成が全国的にも課題となっています。また、昨今は専門職員の正規職を公募しても応募者がいない状況も全国的に課題になっています。育成だけでなく専門職員のなり手確保が課題になってきており、人口減少の中で専門職

員の魅力発信も求められています。

文化財専門職員は、発掘調査によって埋蔵文化財の保護を図るだけでなく、これまでの調査成果などを活用し、地域アイデンティティの形成や地域活性化に貢献していくことが求められています。埋蔵文化財のみならず、文化財行政全般において保護・活用を担う重要な人材として適切な職員配置が望まれます。

## 5 埋蔵文化財の保存と活用

### (1) 史跡の整備と発掘調査

本県には16件の国指定史跡、29件の県指定史跡があります。これらの貴重な史跡の保存と活用を図るため、指定地の公有化や計画の策定、保存を目的とした確認調査など、保存・活用に関する取り組みが行われています。国指定史跡では、甲府城跡（山梨県）、武田氏館跡（甲府市）、梅之木遺跡（北杜市）、新府城跡（韮崎市）、御勅使川旧堤防（南アルプス市）、甲斐国分寺跡（笛吹市）などで、保存・活用、整備が進められています。

なお、令和7年9月26日には、安道寺遺跡出土の深鉢形土器1点が重要文化財（美術工芸品）に指定され、深鉢形土器1点、深鉢形土器把手4点が附指定となりました。これを受け、県内の国重要文化財（考古資料）は7件となりました。

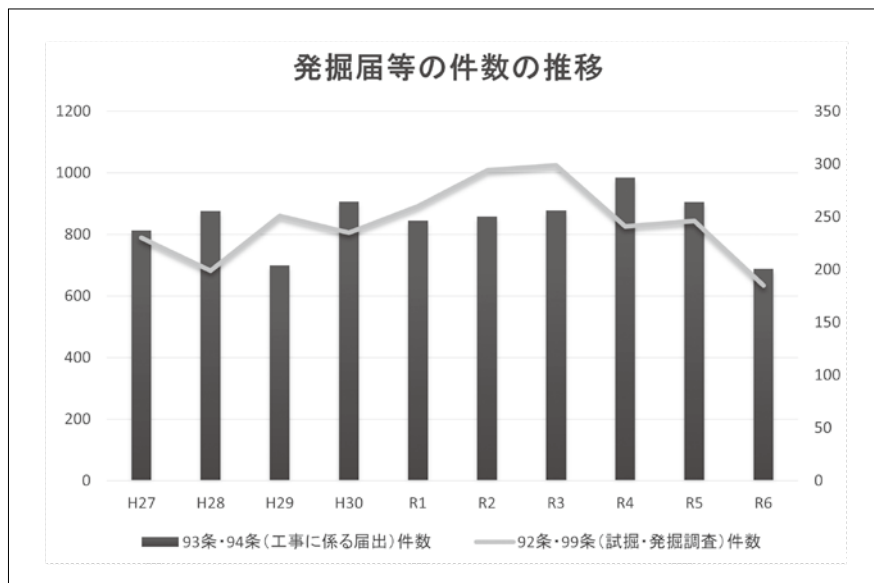
### (2) 展覧会・シンポジウム・研究会等

今年度の展覧会として、山梨県立考古博物館では、企画展「帆立貝古墳のミステリー—三珠大塚古墳と甲府盆地の5世紀—」、企画展「釣手土器の世界」、特別展「PAPUA × JOMON 縄文文化の謎を考える—パ

プアニューギニアの民族誌—」が開催されました。また、令和6年度に新たに山梨県指定有形文化財に指定されたケカチ遺跡（甲州市）から出土した和歌刻書土器と外中代遺跡（甲府市）から出土した暗文絵画土器を紹介する「新指定文化財お披露目展—土器に刻まれた古代甲斐のアートと文学—」が県立考古博物館のほか、山梨デザインセンター、甲州市役所、甲府市藤村記念館で開催されました。

北杜市考古資料館では、長野県富士見町・原村と連携して、共同企画展「JOMON IS ROCK —縄文人の暮らしと石器—」が開催されました。南アルプス市ふるさと文化伝承館では、重要文化財指定30周年記念テーマ展「鋳物師屋遺跡の世界観とその仲間たち」が、釈迦堂遺跡博物館では企画展「縄文のモノ・まね展」などが開催されました。

その他、研究団体によるイベントとして、山梨県考古学協会は、地域大会「弥生時代の墓制について考える」を甲府市で開催しました。このほか、各市町村教育委員会や研究団体等において、史跡や埋蔵文化財の活用を図る様々な事業が行われました。



# 発掘調査最新情報

- ① 遺跡名      ② 所在地      ③ 遺跡の時代      ④ 調査期間      ⑤ 調査担当者  
⑥ 調査機関      ⑦ 調査面積      ⑧ 遺跡の概要      ⑨ 問い合わせ先

## 甲府市

①大津天神堂遺跡（おおつてんじんどういせき）（第2次調査） ②甲府市大津町地内 ③中世 ④令和7年4月30日～令和7年9月19日 ⑤熊谷晋祐・高左右裕・一之瀬はる奈・原雅喜 ⑥県埋蔵文化財センター ⑦約3,700㎡ ⑧令和5年度調査区（第1次）の際、調査できなかった現道・現水路を撤去した箇所が調査対象。第1面では、16世紀の水田跡と島畠状遺構を確認した。水田跡に伴い、1基の土坑を検出したが、底面に多量の種子等の植物遺体が堆積していた。廃棄坑と想定される。第2面は柱穴及び溝等で構成される15世紀の集落跡を確認した。1次調査から続きで見つかった幅3m程度の溝からは、完形品を含む多数の土器・木製品が出土した。一方、1次調査では確認できなかった、石組井戸や木棺墓も検出した。ムラの様子が明らかになりつつある。 ⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①甲府城下町遺跡（こうふじょうかまちいせき）②甲府市中央四丁目 ③近世 ④令和7年5月7日～令和7年6月13日 ⑤志村憲一 ⑥甲府市教育委員会・茅ヶ岳歴史文化研究所 ⑦約164㎡ ⑧民間開発に伴う発掘調査。調査地点は、甲府城下町遺跡の中央部、三の堀内側の商職人発展地、柳町宿にあたる。調査では近世から近代にかけての火災層や江戸時代に該当する遺構を検出した。 ⑨甲府市教育委員会 055-223-7324、茅ヶ岳歴史文化研究所 0551-45-7672

①甲府城下町遺跡（こうふじょうかまちいせき）②甲府市朝日一丁目22-1 他 ③近世・近代 ④令和7年6月26日～令和7年7月31日 ⑤泉 英樹・浅川晃一 ⑥昭和測量株式会社 ⑦190㎡ ⑧調査地点は天守台より北西約600m付近、二の堀郭内武家屋敷地の裏先手小路に面して所在する。遺構として溝状遺構2条、井戸2基、土坑2基、ピット6基のほか、攪乱により性格付けが困難な不明遺構1基を検出した。遺物は灯明皿や播鉢、酒坏

や仏飯器等の陶磁器のほか、金属製品や瓦が出土している。 ⑨昭和測量株式会社 055-262-7266

①史跡甲府城跡（しせきこうふじょうあと）②甲府市丸の内一丁目131番ほか ③近世 ④令和7年7月1日～令和7年10月31日 ⑤佐賀桃子・渡邊みずか ⑥県埋蔵文化財センター ⑦約168㎡ ⑧大手門に近接した内堀の復元整備のため、令和4年度から楽屋曲輪東面石垣の調査を実施している。今年度は石垣の背面構造を明らかにするための調査を行い、築石の裏に裏栗層、盛土、地山と続く構造であることを確認した。また、石垣下部では地盤改良や石垣の補強と考えられる胴木遺構と、その下に礫を充填した根切りを確認した。 ⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①神田遺跡（かんだいせき）②甲府市千塚三丁目2177番1外10筆 ③弥生～平安 ④令和7年7月14日～令和7年12月15日 ⑤藤巻浩太郎 ⑥昭和測量株式会社 ⑦1,040.67㎡ ⑧宅地造成に伴う丁字形の道路範囲についての調査。6mの道路幅で南北約98mの範囲を2工区に分割し、東西約60mの範囲1工区を合わせた3工区にて調査を行った。調査では弥生時代後期から平安時代にかけての竪穴住居跡11軒や溝跡17条、土坑31基などを検出した。古墳時代前期の土器がまとまって出土した溝跡や、約300点もの遺物が出土した平安時代の竪穴住居跡を検出した。また、平安時代以降の土層から白銅製の和鏡が出土した。 ⑨昭和測量株式会社 055-262-7266

①史跡武田氏館跡（しせきたけだしやかたあと）②甲府市古府中町地内 ③戦国 ④令和8年1月15日～令和8年12月末（予定） ⑤佐々木 満・鷹野義朗 ⑥甲府市教育委員会 ⑦約115㎡（予定） ⑧史跡内容整備に伴う重要遺跡内容確認調査。主郭-西曲輪間土橋の状況確認に着手した。 ⑨甲府市教育委員会 055-223-7324

①大津天神堂遺跡（おおつてんじんどういせき）（第3次調査）②甲府市大津町地内③中世④令和8年1月21日～2月27日⑤大木貴仁・桐部夏帆⑥県埋蔵文化財センター⑦約300㎡⑧令和5年度（第1次）と令和7年度（第2次調査）に調査できなかった擁壁を撤去した箇所が調査対象である。第1次、第2次調査で検出した遺構の続きが発見されると思われる。過去の調査で第1面では、16世紀頃の島島と水田跡、第2面では15世紀頃の集落跡を検出している。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①西耕地A遺跡（にしこうちえーいせき）②甲府市大里地内③中世④令和7年11月3日～令和8年2月9日⑤宮澤公雄⑥公益財団法人山梨文化財研究所⑦370㎡⑧調査地点周辺は、古市場の地名が残り、市の一角ないし、市にかかわる遺物の廃棄場所と思われ地点の発掘調査である。15世紀後半から16世紀前半のかわらけが大量廃棄されており、遺物はコンテナボックス100箱ほどにもなる。⑨公益財団法人山梨文化財研究所 055-263-6441

## 都留市

①中谷遺跡（なかやいせき）②都留市小形山2265-1③縄文・平安④令和7年5月19日～令和8年3月（予定）⑤鷹野あきこ・河西 完・佐々木卓二⑥県埋蔵文化財センター⑦約6,000㎡⑧今回調査では、縄文時代中期～後期、平安時代の集落後を発見し、それに伴い縄文時代中期の竪穴建物跡1軒、縄文時代後期の柄鏡形竪穴住居跡2軒、配石遺構2基、平安時代の竪穴建物跡6軒、土坑、柱穴等を確認した。過去の調査では、縄文時代の集落域が、遺跡を南流する高川の支谷から東の下流方向に展開していることが判明していたが、今年度の調査により住居上流側に集落が広がっていたことが明らかとなった。調査した柄鏡形竪穴住居跡では、縁石に巨大な河原石を使用していたことを確認でき、土砂供給の著しい斜面地に対応した構造と推察される。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①牛石遺跡（うしいいせき）（第1調査エリア）②都留市厚原地内③縄文・古代～近世④令和7年10月1日～令和8年12月31日⑤高野高潔・泉 英樹・小池準一⑥昭和測量株式会社⑦4,800㎡⑧企業誘致事業に伴

う発掘調査。遺跡は山梨県東部に位置し、桂川と大幡川に挟まれた河岸段丘上に立地する。奈良時代・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡を検出している。また、縄文時代前期・中期の土器片・石鏃や石錐などの石器も出土した。⑨昭和測量株式会社 055-262-7266

①牛石遺跡（うしいいせき）（第2調査エリア）②都留市厚原地内③縄文・古代～近世④令和7年10月1日～令和8年12月31日⑤平野 修・宮澤公雄・望月秀和⑥公益財団法人山梨文化財研究所⑦約4,800㎡⑧企業誘致事業に伴う発掘調査。調査地点は昭和50年代に発見された環状列石から、おそらく50～60mほど東に位置している。本エリアでは古代の遺構・遺物ともに少なく、後世の耕作痕が著しい。遺構では中世以降と推定する円形・フラスコ状の土坑が検出されたほか、旧地形の起伏が認められ、同調査面の一部では縄文時代の遺物が検出されている。⑨公益財団法人山梨文化財研究所 055-263-6441

## 韮崎市

①下横屋遺跡（しもよこやいせき）②韮崎市藤井町地内③弥生～平安④令和7年6月4日～令和7年9月30日⑤渋谷賢太郎⑥韮崎市教育委員会⑦約1,000㎡⑧店舗建設に伴う発掘調査。弥生～平安時代の遺構及び遺物を検出した。主な遺構は、弥生時代後期の住居跡1軒、平安時代の住居跡2軒であり、そのほかに水田跡等を検出した。氾濫原における離水後の複雑な古地形を基盤として行われてきた土地利用変遷の一端が明らかとなった。⑨韮崎市教育委員会 0551-45-7256

①宮ノ前第5遺跡（みやのまえだいがいせき）②韮崎市藤井町地内③平安④令和7年7月8日～令和7年8月29日⑤間間俊明・半澤直史⑥韮崎市教育委員会⑦44㎡⑧個人住宅建設に伴い、擁壁設置部分の発掘調査。44㎡という狭小な面積ながら、切り合っている住居跡10軒以上を検出。そのうち3軒でカマドを検出した。遺物は主なものとして、平安時代の土師器・須恵器・墨書土器等を検出した。⑨韮崎市教育委員会 0551-45-7256

①築地遺跡（ついでいせき）②韮崎市大草町地内③縄文・弥生～古墳④令和7年9月24日～令和8年1月5

日 ⑤渋谷賢太郎・関間俊明・半澤直史 ⑥葦崎市教育委員会 ⑦約 180㎡ ⑧個人住宅建設に伴う発掘調査。造成段階の樹木伐根により遺跡の破壊が免れないと判断されたことから、本調査を実施。縄文時代前期、弥生～古墳時代の遺構及び遺物を検出した。主な縄文時代の遺構は、前期（中越式・神ノ木式期）の住居跡 5 軒、弥生～古墳時代の方形周溝墓 2 基等を検出した。 ⑨葦崎市教育委員会 0551-45-7256

①北下條殿田遺跡（きたげじょうとのだいせき）②葦崎市藤井町地内 ③弥生～平安 ④令和 7 年 12 月 1 日～令和 8 年 1 月 27 日 ⑤半澤直史 ⑥葦崎市教育委員会 ⑦約 363㎡ ⑧宅地分譲事業に伴う発掘調査。溝状遺構 2 条検出。土坑 1 基、ピット 7 基を検出した。遺物は弥生時代～古墳時代のものが中心でその時期の遺跡である可能性が考えられる。 ⑨葦崎市教育委員会 0551-45-7256

①宮ノ前第 3 遺跡（みやのまえだいさんいせき）②葦崎市藤井町地内 ③縄文・弥生～古墳・中世 ④令和 7 年 12 月 3 日～令和 7 年 12 月 25 日 ⑤関間俊明 ⑥葦崎市教育委員会 ⑦ 40㎡ ⑧個人住宅建設に伴い、擁壁設置部分の発掘調査。竪穴建物跡 6 軒を検出。そのほかに平面形態八角形の土坑 1 基等を検出した。遺物は主なものとして、平安時代の土師器・須恵器等を検出した。 ⑨葦崎市教育委員会 0551-45-7256

## 南アルプス市

①村後遺跡（むらうしろいせき）②南アルプス市鮎沢 396 番外 ③古墳～平安 ④令和 7 年 9 月 17 日～令和 7 年 10 月 4 日 ⑤小澤英幸・後藤健一郎 ⑥南アルプス市教育委員会 ⑦約 220㎡ ⑧本調査地点は滝沢川扇状地扇端部に立地している。調査地点北東には平安時代の木造浅間神像が安置されている江原浅間神社や、古代の遺物が検出されている江原遺跡が位置している。本調査は宅地造成に伴うものである。調査では古墳時代から平安時代と推測される竪穴住居が検出された。また調査区東は砂礫が堆積しており、流路跡が確認された。 ⑨南アルプス市教育委員会 055-282-7269

①御勅使川堤防址群（みだいがわていぼうしぐん）②南アルプス市六科 827 外 ③近世・近代 ④令和 7 年 11 月

4 日～令和 8 年 1 月 6 日 ⑤後藤健一郎 ⑥南アルプス市教育委員会 ⑦約 440㎡ ⑧本調査地点は国指定史跡御勅使川旧堤防（将棋頭・石積出）を構成する将棋頭から東に位置している。本調査は圃場整備事業に伴う発掘調査である。調査の結果、将棋頭から不連続に続く御勅使川の堤防跡や蛇籠が検出された。堤体は砂礫を砂質土が覆う構造をしている。また長さ約 2.3 m、高さ約 0.6 m を数える石を積んだ構造物も発見されており、その遺構の性格については今後の課題である。 ⑨南アルプス市教育委員会 055-282-7269

①寺部村附第 10 遺跡（てらべむらつきだいじゅういせき）②南アルプス市寺部 98 他 ③弥生～古墳・中世 ④令和 7 年 12 月 11 日～令和 7 年 12 月 26 日 ⑤小澤英幸 ⑥南アルプス市教育委員会 ⑦約 245㎡ ⑧本調査地点は御勅使川扇状地の扇端部に近い原方と田方の境あたり、コストコ南アルプス倉庫店の南側に位置している。周辺には古墳時代前期の大規模集落として知られる村前東 A 遺跡や、古墳時代中期の低墳丘墓が検出された寺部村附第 6 遺跡など弥生時代～平安時代の遺跡が密に分布している。本調査は道路新設工事に伴うものである。調査では南北方向に走る弥生後期から古墳時代と思われる溝状遺構が検出された。砂礫が厚く堆積しており近世の洪水と思われる流路跡が認められた。 ⑨南アルプス市教育委員会 055-282-7269

①石積出三番堤（いしつみだしさんばんてい）②南アルプス市有野 2511 番 12、2510 番 2、2506 番 2 ③近世・近代 ④令和 8 年 1 月 12 日～令和 8 年 3 月（予定）⑤斎藤秀樹・小澤英幸・後藤健一郎 ⑥南アルプス市教育委員会 ⑦約 100㎡ ⑧国指定史跡御勅使川旧堤防（将棋頭・石積出）を構成する石積出三番堤の重要遺跡範囲確認調査を 1 月に着手した。本年度はまず令和 6 年度調査を実施した川面側基底部の西側を対象とし、根固めの中枠とその川側には竹蛇籠と推測される石列を発見した。また、この中枠から南西方向へのびる石積みの構造物を検出した。その範囲、機能については現在調査中である。次に、堤体先端部の根固め木工沈床北側を調査した結果、木工沈床が 2 区画で 3 段構造であったことが明らかとなった。 ⑨南アルプス市教育委員会 055-282-7269

①三輪南遺跡（みわみなみいせき）②南アルプス市下宮

地 247 - 1 外 ③古墳・平安 ④令和 8 年 2 月 3 日～令和 8 年 3 月 19 日 (予定) ⑤齊藤秀樹・小澤英幸 ⑥南アルプス市教育委員会 ⑦約 560㎡ ⑧調査地点は延喜式内社として伝わる神部神社の南側に位置している。本調査は宅地造成に伴うものである。試掘調査では古墳時代後期と思われる竪穴建物跡や土坑などが複数検出され、7 世紀後半の須恵器長頸壺が出土しており、本調査では古墳時代から続く土地利用の様子が明らかになることが期待される。 ⑨南アルプス市教育委員会 055-282-7269

## 北杜市

①腰巻遺跡 (こしまきいせき) ②北杜市須玉町藤田 872 他 ③古墳・奈良・平安 ④令和 7 年 5 月 12 日～令和 7 年 8 月 29 日 ⑤生山優実 ⑥北杜市教育委員会 ⑦ 3,000 ㎡ ⑧塩川右岸の河岸段丘上、標高 490 ～ 480 m に広がる集落遺跡である。調査区は従来、周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、県営圃場整備に先立つ試掘調査において遺構が確認されたことから、遺跡範囲を拡張した。発掘調査では、古墳時代後期、奈良時代、平安時代の竪穴住居跡 31 軒、掘立柱建物跡 10 棟、土坑・ピットなどを発見した。住居跡は古墳時代後期から奈良時代のものが主体を占め、一辺 5 ～ 6 m の方形を呈し、北壁中央にカマドを設け、4 本の柱穴と間仕切溝等を確認した。竪穴住居跡は複数軒が激しく重複し、平坦地が狭い土地を工夫して利用、集落を営んでいたことがうかがえた。 ⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①宗高遺跡 (むねたかいせき) ②北杜市小淵沢町 3809-1 ③縄文 ④令和 7 年 6 月 9 日～令和 7 年 6 月 20 日 ⑤佐野 隆・渡邊泰彦 ⑥北杜市教育委員会 ⑦ 102㎡ ⑧現地は八ヶ岳から南西方向に延びる低地に挟まれた低い尾根上、標高 917 m 付近に位置する。過去に東側隣接地 2 ヲ所から竪穴住居跡 1 と土坑等を検出している。調査の結果、縄文時代中期末葉の竪穴住居跡 5 (曾利 I - 2、曾利 III - 1、曾利 IV - 2)、掘立柱建物跡 1、土坑 1 を確認した。削平のため全体的に遺構の遺存状態は悪い。1 号住居跡は曾利 III 式期の小判型の大型住居で、大きな炉の奥に祭壇状の配石が見られた。約 100㎡の中に 5 軒の住居跡が密集して見つかったことから、環状集落の一部を調査した可能性がある。 ⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①諏訪原遺跡 (すわはらいせき) ②北杜市明野町上神取 1429 ③縄文 ④令和 7 年 8 月 18 日～令和 7 年 9 月 2 日 ⑤吉田泰幸 ⑥盛岡大学・中央大学・慶応義塾大学・立命館大学 ⑦ 100㎡ ⑧令和元年度に開始した調査の最終年度にあたる本年度は、調査区北半においては縄文時代中期中葉の竪穴住居跡の完掘と補足調査、同南半においては縄文時代中期末の石囲炉の調査と複数のサブトレンチ掘削による遺構確認調査を行なった。その結果、調査区北半の竪穴住居跡をはじめとして、調査区全体に縄文時代中期中葉と中期末に位置付けられる竪穴住居跡が複数密集し、複雑に切り合っている様相が確認できた。来年度以降は、現在各調査機関に分散している出土資料を一箇所に集約し、発掘調査報告書の作成を行う。 ⑨盛岡大学文学部社会文化学科 019-688-5555 (代表)

①天神宮遺跡 (てんじんみやいせき) ②北杜市小淵沢町 3259-1、3259-4、3258-4 ③縄文 ④令和 7 年 9 月 1 日～令和 7 年 9 月 26 日 ⑤佐野 隆・渡邊泰彦 ⑥北杜市教育委員会 ⑦ 349㎡ ⑧現地は八ヶ岳から南に延びる低地に挟まれた低い尾根上、標高 867 m 付近に位置する。これまでも北側に 200 ～ 250 m 離れたところで、縄文時代中期中葉～末葉の竪穴住居跡を調査している。調査の結果、縄文時代中期中葉 (藤内式期) の住居跡 4、中期末葉 (曾利 II 式期) の住居跡 1、住居跡の可能性があるピット群と焼土跡 2 ヲ所、土坑 22 などが確認された。中期中葉の 5 号住居跡は確認面からの深さが 1 m を測る、非常に深い遺構であった。 ⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①柳坪北遺跡 (やなぎつぼきたいせき) ②北杜市長坂町大八田 605-1 ③縄文 ④令和 7 年 10 月 9 日～令和 7 年 10 月 24 日 ⑤佐野 隆・渡邊泰彦 ⑥北杜市教育委員会 ⑦ 97㎡ ⑧現地は低地の中に残った微高地上に位置し、これまでに北側と東側隣接地で縄文時代と古墳時代の竪穴住居跡を確認している。遺構精査したところ、調査地点西端で縄文時代の土器と石器を伴う暗褐色土の落ち込みを検出し、住居跡と判断して調査を進めたが、平坦な尾根が西側へと落ち込むところに、暗褐色土とともに縄文時代中期中葉の土器と石器が廃棄されたように堆積した状況であることが確認された。ここから西側と南側に土器捨て場が広がっている可能性がある。 ⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①宗高遺跡（むねたかいせき）②北杜市小淵沢町 3811-1、3812-1 ③縄文 ④令和7年10月27日～令和7年11月10日 ⑤佐野 隆・渡邊泰彦 ⑥北杜市教育委員会 ⑦193㎡ ⑧前述の宗高遺跡調査区の北側40mに位置する。調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡2、掘立柱建物跡1、埋設土器3、土坑16、ピット20、溝状遺構1を確認した。溝状遺構以外は縄文時代のもと考えられる。削平のため全体的に遺構の遺存状態は悪く、住居跡も炉跡と柱穴が残るのみであった。調査区の南端で住居跡が確認され、その北東側に土坑が散在する遺構配置から、環状集落の中心に近いところを調査した可能性がある。 ⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①天神下遺跡（てんじんしたいせき）②北杜市武川町柳澤 2116 他 8 筆 ③中世 ④令和7年11月17日～令和7年12月26日 ⑤生山優実、佐野 隆、廣瀬公明 ⑥北杜市教育委員会 ⑦1,247㎡ ⑧県営圃場整備に伴う発掘調査で、調査対象地は従来、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当していなかったが、令和6年度の試掘調査において、中世のものと考えられる遺構、遺物が確認されたことから、「天神下遺跡」として新たに登録した。発掘調査では、多数の土坑・ピットを発見した。出土遺物が少なく、遺構の時期や性格について判断できるものは少なかったが、古銭（「皇宋通寶」「永樂通寶」）が複数枚出土し、墓と想定される土坑を数基確認した。 ⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

## 笛吹市

①毘沙門遺跡（びしゃもんいせき）（第3次調査）②笛吹市境川町石橋地内 ③古墳・平安 ④令和6年12月20日～令和7年4月25日 ⑤鷹野あきこ・河西 完・佐々木卓二 ⑥県埋蔵文化財センター ⑦約1300㎡ ⑧今年度調査では、調査区西部～中央部において、古墳時代終末期の竪穴建物跡3軒、奈良～平安時代の竪穴建物跡11軒、調査区東部のシルト層上で、集石土坑2基を発見した。この他、古墳時代の竪穴状遺構の上層において、祭祀関連遺構の可能性のある置石を伴う遺物集中を確認した。これまで毘沙門遺跡は2度の発掘調査を実施し、今年度はその東部隣接地の調査となる。山裾に当たる本調査区では、古墳～平安時代の集落の東端を確認すること

ができ、また、過去調査区に比べ竪穴建物跡が密に分布している様相を捉えた。 ⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①甲斐国分寺跡（かいこくぶんじあと）②笛吹市一宮町国分地内 ③奈良 ④令和7年5月21日～令和7年12月11日 ⑤江草俊作 ⑥笛吹市教育委員会 ⑦約80㎡ ⑧国指定史跡甲斐国分寺跡・甲斐国分尼寺跡の史跡整備に先立ち、甲斐国分寺跡の中心伽藍地域の性格等を把握することを目的として発掘調査を実施している。今年度は、甲斐国分寺跡の塔跡南面階段、講堂跡南面石敷き、西基壇建物跡の遺構確認を目的として調査区を設定した。その結果、塔跡南面では、基壇版築とともに南面階段が3段分検出された。また、講堂南面では、金堂跡へと続く石敷きの広がり確認される等、地下遺構が良好な状態で保存されていることを確認した。 ⑨笛吹市教育委員会 055-261-3342

①神明遺跡（しんめいいせき）②笛吹市石和町小石和 ③中世・近世 ④令和7年6月2日～令和7年10月10日 ⑤大木貴仁・桐部夏帆 ⑥県埋蔵文化財センター ⑦約1,412㎡ ⑧新山梨環状道路建設のための調査。室町時代のピットや土抗、溝、土器が積み重なった遺物集中遺構や、石組みの井戸、人骨を伴う土壇墓、石組遺構などを検出した。調査区の東側と西側では様相が異なっており、遺物集中遺構は東側で検出しており、土師質土器皿（かわらけ）を中心に構成されている。宴会等の片付けの痕跡である可能性が考えられる。土抗墓は西側で検出しており、土壇墓の周りには溝が巡らされている。また、平安時代の竪穴建物跡も検出しており、平安時代の集落と判断できる。 ⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①亀甲塚古墳（かめのこうづかこふん）②笛吹市御坂町 3342 成田地内 ③古墳 ④令和8年2月24日～令和8年3月2日（予定）⑤櫛原功一・阿部朝衛・高木暢亮・植月 学・佐々木蘭貞・赤司千恵 ⑥帝京大学文化財研究所 ⑦約50㎡ ⑧帝京大学の考古学野外実習として文化財研究所が実施する学術調査。墳形確認を目的に平成29年より継続的に実施するもので、令和6年度の調査では、北側の段差状遺構を東西に延長して範囲確認を行い、約15m以上にわたり直線的な後方部のラインが明らかになった。したがって令和5年に確認した前方部の存在と

合わせ、全長 45 m 規模の前方後方墳である可能性を想定している。今回の調査では後方部のコーナー部分を確認するため、段差状遺構を東西に延長して調査する予定である。⑨帝京大学文化財研究所（櫛原功一） 055-261-0015

## 中央市

①小井川遺跡（こいかわいせき）（第 7 次調査）②中央市布施 402-2 ③中世 ④令和 7 年 3 月 10 日～令和 7 年 6 月 20 日 ⑤内田祥一・江原 東 ⑥県埋蔵文化財センター ⑦約 700㎡ ⑧今回調査では、中世末から江戸時代初期と考えられる 16 世紀後半頃の水田が確認された。水田には畔や約 1200 箇所足跡、鋤で畔の横を掘った跡などが約 270 箇所発見された。水田は 2 枚確認されており、水田の東脇には水路が南流していた。これまでの調査で発見されている寺院や集落などに付属する生産遺跡といえる。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①平田宮第 2 遺跡（ひらたみやだいにいせき）（第 6 次調査）②中央市下河東 3026-1 ③平安・中世 ④令和 7 年 10 月 6 日～令和 8 年 2 月 13 日 ⑤内田祥一・江原 東・原 雅喜 ⑥県埋蔵文化財センター ⑦約 1,400㎡ ⑧今回調査では洪水時の土砂により遺構や遺物はほとんど削られてしまっていた。東側調査区の 3 面目において平安時代（10 世紀後半頃）の畑跡が 2 枚確認できた。畑は畝の軸が東に傾いており、これまでの近隣の遺跡の発掘調査で確認されている平安時代や中世の水田などと同じ傾きであった。また、北側と南側の畑ではで畝間の間隔や幅が異なっていることがわかっており、これが作物による違いなのか今後の自然科学分析などで明らかにしていきたい。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①上窪遺跡（かみくぼいせき）（第 13 次調査）②中央市下河東地内 ③古代・中世 ④令和 7 年 12 月 22 日～令和 8 年 4 月（予定）⑤熊谷晋祐・一之瀬はる奈⑥県埋蔵文化財センター ⑦約 3,000㎡ ⑧令和 4 年度～5 年度に発掘調査した第 10 次調査地点は、数箇所に調査区が分かっている。第 13 次調査は、その調査区間に設定された。平安時代～鎌倉時代の水田跡、10 世紀前後の田畠跡、9 世紀後半の集落跡の検出が見込まれる。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

## 昭和町

①義清神社内遺跡（よしきよじんじやないいせき）②中巨摩郡昭和町西条 ③平安・近世 ④令和 7 年 7 月 1 日～令和 7 年 8 月 1 日 ⑤田代 孝・俵 有輝・高野高潔・泉英樹・浅川晃一 ⑥昭和町教育委員会・昭和測量株式会社 ⑦ 87㎡ ⑧拝殿の建て替え工事に伴う発掘調査。遺跡は甲府盆地中央の釜無川扇状地中央部の自然堤防上に立地する。拝殿の基壇部にあたる盛土遺構の土層から、大量のカワラケが破片の状態出土した。盛土遺構最下部からは銅製の薄円板が出土し、御正体・儀鏡のような性質のものであると考えられる。また、僅少ではあるが土師器柱状高台の皿など平安時代末の破片も出土した。⑨昭和町教育委員会 055-275-8641、昭和測量株式会社 055-262-7266

知ろう山梨の歴史!

# 山梨の遺跡発掘展 2026

2026 3/7 sat ~ 4/5 sun

休館日 3/9・16・23・30



腰巻遺跡 (北杜市)

## 会場

### 山梨県立考古博物館 企画展示室

山梨県甲府市下曾根町 923

主催：山梨県埋蔵文化財センター

共催：山梨県立考古博物館

協力：甲府市教育委員会、韮崎市教育委員会、北杜市教育委員会、市川三郷町教育委員会、昭和町教育委員会、昭和測量株式会社

入場無料

## 展示内容

- 甲府市 大津天神堂遺跡 (中世)  
神田遺跡 (弥生~平安)  
史跡甲府城跡 (近世)
- 都留市 中谷遺跡 (縄文・平安)
- 韮崎市 築地遺跡 (縄文~古墳)
- 北杜市 腰巻遺跡 (古墳~平安)
- 笛吹市 石橋氏屋敷跡・先屋敷古墳群 (弥生~平安)  
毘沙門遺跡 (古墳~平安)  
神明遺跡 (平安・中世)

石橋氏屋敷跡・先屋敷古墳群 (笛吹市)  
で見つかった蕨手刀



義清神社内遺跡 (昭和町)

- 中央市 平田宮第2遺跡 (平安・中世)  
上窪遺跡 (平安~中世)  
小井川遺跡 (中世)
- 市川三郷町 大塚古墳 (古墳)
- 昭和町 義清神社内遺跡 (平安・近世)
- 全県 県内遺跡分布調査 (縄文~近世)  
近世・近代の埋蔵文化財保護 (近世・近代)
- 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」関連展示  
北杜市 寺所第2遺跡  
埋蔵文化財センター普及事業

問い合わせ

山梨県埋蔵文化財センター ☎ 055-266-3016 (平日 9時~17時)

HPはこちら



令和7年度文化庁 地域のある埋蔵文化財活用事業

## 2025 (令和7) 年度 第2回 遺跡調査発表会要旨

発行日 2026年3月14日(土)  
発行所 山梨県埋蔵文化財センター TEL 055-266-3016  
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923  
<https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>  
山梨県考古学協会 TEL 055-263-6441  
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566  
帝京大学文化財研究所内  
やまなしのこうこがく <https://sankoukyou1979.wordpress.com/>  
印刷所 峽南堂印刷所 TEL 055-235-2528